

キャンパス

http://my-campal.com/

毎日新聞
夕刊(関東版)

なに...?!
コシ!?

教室の席は前からぎっしり埋まり、90人を超える学生には毎回欠席も遅刻もなし。講義には絶えず相づちが打たれ、するどい質問が飛びこも。立教大・池袋キャンパス内で開講している立教セカンドステージ大学(RSSC)では、まさに理想の授業風景を見ることができるといえる。

学ぶことに貪欲な「学生」たちだが、平均年齢は63歳。RSSCは入学資格を満50歳以上に設定し、学び直し

立教セカンドステージ大学

「貪欲な大学生」は平均63歳!!



と再チャレンジをサポートする「生涯学習の場」として08年4月に開校した。

RSSCには本科と専攻

科があり、本科の受講生は11クラスあるゼミナール写真のいずれかに所属する。1年間の課程を終えた本科生は修了報告書を作成、さらに学びたい受講生は専攻科(1年)へ進む。本科の倉嶋澄子さん(61)は「家族に尽くしてきましたが、自分の時間を持てるようになりたかった。ここで社会とのかかわりを持てるものを見つけたい」と語る。

授業では、ジャーナリスト立花隆夫の「見も社会論」

や、実際に墓地見学を行い死について考える「最後まで自分らしく」といったRSSCならではの講義を本科と専攻科の2学年の受講生約150人が受けている。「私はゼミで環境について学んでいます。同じ志を持つ仲間と意見を交換し、議論することで、新たな視点を見いだすことができます。ゼミの後の飲み会も楽しみですね」。ゼミ長を務める本科の神山利さん(66)は、笑みを浮かべた。

RSSC副学長の千石英世教授(61)は「受講生は社会で一流の仕事をやり返けた人たちが教えられることも多い。授業が教授から受講生への一方通行ではなく、時間を共有できる。これがRSSCの最大の特徴だと思います」と語る。

「学びたい」。純粋な気持ちで授業に向かったとき、私たちは本当の意味での「学生」になれるのかもしれない。40歳以上の学生仲間に出会い、改めて学ぶ楽しさを教えてもらった。